

令和6年度中京区地域保健推進協議会議題に係る結果及び意見集約

書面審議期間 令和6年8月26日～9月10日

1 部会長、副部会長の選出について結果

部会長 梶田 洋一郎

副部会長 山本 真澄

2 中京区役所保健福祉センターの取組についての御意見

○特定健診について、現在区役所で完全予約制にて実施されているが、受診者の多くが中京区以外の地区である。区役所は中京西部地区からのアクセスが悪く、コロナ禍以前のように地区ごとに小学校等で実施すべきではないかと考えております。

かかりつけ医のおられない高齢者は特に問題と思われます。

また、コロナ禍で外出や人とのコミュニケーションが減少していたため、下肢筋力や認知能力の低下気味の高齢者が増えているように感じられます。運動と骨粗鬆も密接な関係があり、健康長寿を考える上で大切であると思われ、健康づくりや健診と組み合わせる等の取り組みが必要と考えます。認知に対しても、区のイベント等の広報を増やし、参加を促すと良いのではないのでしょうか。

○胸部検診受検者増のため、案内チラシ配布など引き続き協力させていただきます。

成人・妊婦歯科相談や乳幼児歯科相談に関しまして、コロナ禍もあって相談数が一時的な減少を見せておりましたが、落ちついてきたこともあり、今後の相談件数増加を期待しております。

○母子保健に携わる立場として、京都市中京区の出生率低下は残念に思いますが、少ないからこそその手厚いケアをぜひお願いいたします。

産後ケアや産前産後訪問もそうなのですが、近年、ダブルケアの方が増えている印象です。社会課題とも言えますが、区としての取り組みも期待しています。

3 その他の御意見

○皆様の健康な生活に応える看護の提供を理念としていますので、ご協力を看護協会として行ってまいりたいと思います。

○男子が施設出所する年齢以後、受け入れる施設を作れば。

罪を犯した方が保護観察期間中に仕事がお世話できなかった時、それ以降は国の施設は知らん状態。(役所がお世話する期間は終わった、後は自分で何とかしなさい)

子どもも大人も悪事に誘われにくい状況を作らないといけないと思います。